

アイドルと恋愛

—性別の違いによる報道と処遇の比較—

「アイドル」という存在には「恋愛禁止」という風潮が強く根付いており、特に日本のアイドルは恋愛をすると非難される傾向が顕著である。そこで筆者は3つの疑問を抱いた。1つ目はなぜ日本のアイドルは熱愛が発覚するとファンから非難の目を向けられるのか、2つ目は恋愛禁止の風潮はいつから存在するのか、3つ目は恋愛が公になった後のアイドルの性別による処遇や報道の具体的な違いはあるのか、といった疑問である。

上記の疑問を解決するために、アイドルの恋愛報道についてのデータ調査と、「アイドル＝恋愛禁止」という価値観が世間に根付いているのかを確かめるためのアンケート調査を行った。そのうえで、社会背景やジェンダー的な視点から、また世間の認識から考察をし、アイドルの恋愛は本当にタブーなのか再考することを本稿の目的とした。

先行研究では、アイドルが恋愛をしてはいけないとされる理由は、アイドルはファンとの疑似恋愛をビジネスとしていることと、恋愛が公になったことで何らかの処遇がアイドルに行使されるようになったのは2005年のモーニング娘。の恋愛報道が始まりとなったことが明らかになった。

そして3つ目の疑問は、性別ごとのアイドルの熱愛発覚後の処遇や報道の仕方について新聞・雑誌、インターネット記事を用いたデータ調査によって明らかにした。報道において、昭和期～平成初期にかけては男性アイドルの方が恋愛・結婚に寛容な傾向が見られたものの、それ以降は性別問わず報道の仕方が平等に変化していったことが分かった。

アンケート調査においては、世間全体に「日本のアイドル＝恋愛禁止」という風潮が根付いていることが読み取れた。また、回答者の性別や年齢、アイドルが好きか否かに関わらず、その存在に疑問を持つ意見が多く見られた。

データ調査とアンケート調査の結果を比較すると、現代の報道ではアイドルの恋愛に比較的寛容な傾向が見られ、「恋愛禁止」の風潮に疑問を呈す意見もあった。アンケート調査においても、恋愛禁止の風潮に否定的な声は多くあったため、アイドルの恋愛に対する報道と世間の見解の違いはおおよそ無いことが判明した。

本研究で、社会の動きに伴ってメディアや世間のアイドルと恋愛に対する認識が変わってきていること、恋愛禁止の風潮に疑問を呈す声が多いことが明らかとなった。このことから、現代においてアイドルの恋愛はタブーではないという結論に至った。しかし、恋愛をすることによってペナルティを受けるアイドルが後を絶たないのは、アイドル事務所側のアイドルと恋愛に対する価値観が旧態依然としており、事務所側がアイドルの恋愛をタブーとしているためと言える。現在、人々のライフコースは非常に多様化しているが、それと同様に、アイドルのライフスタイルも縛られずに自由になることを望んでいる。